平成13年度前期企画展　開館10周年記念

むかしのわざに挑戦

―古代体験教室―

火おこし体験

熊本県立
装飾古墳館

熊本県立装飾古墳館

開催にあたって

当館が、従来のただ「見せる」だけの博物館ではなく、県民参加型の博物館をめざして開館してから、今年はちょうど10年目に当たります。

この目標を達成するため、開館と同時に実習棟の基本構想の策定に着手し、平成７年１月12日、体験学習を中心とする体験学習室・集団学習室等を持つ「実習棟」の竣工を見て、本格的な県民参加型の博物館としての足場を得ることができました。

以後の、本館における体験学習への取り組みは、次ページ記載のとおりでありますが、年を追う毎に参加者も大幅に増え、原始・古代の衣食住をより身近に体験すると同時に、親子の触れ合い、対話の場としても大いに好評を博して参りました。

今回は、これら当館が今まで実施してきた、体験学習の数々を振り返り、「むかしのわざに挑戦－古代体験教室－」として、企画展を実施することにいたしました。

この企画展の目的は、県民の皆様に体験学習教室の学習内容を知っていただく事と、今まで体験学習教室に携わってきた、当時の学芸員の苦労を偲び、現職員として反省すべき点は反省し、今後のより良き体験学習のあり方を模索して行こうという思いから、企画いたした次第です。期間中にご来館いただき、ご観覧給われば幸いです。

また今後、館で企画いたします体験学習教室に、親子でご参加いただきますことを、心からお待ちいたしております。

平成13年７月17日

熊本県立装飾古墳館長　**桑　原　　憲　彰**

体験学習メニュー

縄文土器づくり（平成9年）

縄文の布づくり（平成13年）

勾玉づくり

－縄文時代～古墳時代（約12,000年前～1,300年前）－

縄文時代に、イノシシやシカなどの牙をペンダントにするようになりました。このペンダントを、ひすいや碧玉、ガラスなどでつくったのが勾玉です。

ペンダントにされた動物の牙は、狩りでしとめた獲物のものだったのでしょう。牙のペンダントは、狩りで獲物をしとめた記念に身につけたのではないでしょうか。

体験学習では　高麗石（滑石）という軟らかい石をヤスリで磨いて形をつくり、ひもを通してできあがり。

縄文土器づくり

－縄文時代（約12,000年前～2,400年前）－

アメリカの動物学者モースが東京の大森貝塚を発掘して、出てきた土器についている模様を「縄文」と名づけました。縄文土器は日本で初めて登場した土器（やきもの）で、世界最古の土器でもあります。

土器の発明によって、食べ物を「煮る」「蒸す」ことができるようになり、食べられる食材が大幅に増えました。特に、縄文時代の主食だったドングリのアク抜きに威力を発揮したようです。

縄文土器には、ひもを押しつけながら転がした縄目の模様のほか、竹のへらや動物の骨、貝殻などを使って、押しつけたり、突いたり、引いたりして、さまざまな文様を描き出しています。

体験学習では　縄文時代とほぼ同じつくり方をしています。粘土のひもをつみあげて形をつくり、表面に文様をつけて、３週間ほど陰干ししたあと野焼きで焼きあげます。

縄文の布（編布）づくり

－縄文時代（約12,000年前～2,400年前）－

編布とは、植物の繊維をより合わせた糸やひもを、からませるようにして編んだ布のことで、ふつうは「あみぬの」とも呼ばれています。縄文時代の終わりごろの遺跡からは、幅５cmくらいの編み物が見つかっています。

縄文時代の編み物は、土器をつくるときの敷物にしたり、大事なものを包むことに使われていたようです。

体験学習では　縄文時代の編み物づくりの方法はよく分かっていませんが、今のスダレのような編み方をしているようです。編み台に数十本のたてひもを垂らし、よこひもにたてひもを一本ずつからませて編み、これをくりかえしてコースターなどを編みます。

ドングリクッキーづくり

ドングリクッキーづくり

－縄文時代（約12,000年前～2,400年前）－

およそ１万年前に氷河期が終わって、地球上は今とほぼ同じ気候になり、日本は豊かな森におおわれました。狩り・漁のほか、植物採集をしてくらしていた縄文人たちは、毎年たくさん実るシイ・カシなどのドングリを、アク抜きして食べていました。その一つに、ドングリの粉と、ヤマイモや動物の肉などを混ぜて焼きあげた「ドングリクッキー」がありました。

木の実は、誰でも簡単に集められますし、保存しておけばいつでも食べられます。栄養面でもカロリーが豊富で、ドングリは縄文時代の主食だったと考えられています。

体験学習では　アク抜きしたドングリの粉と、小麦粉・卵・砂糖・クルミなどを練り合わせ、石焼きして焼きあげます。縄文時代より甘くておいしい味つけになっているでしょう。

赤米づくり

－弥生時代～（約2,400年前～）－

朝鮮半島から日本に米づくりが伝わって、弥生時代が始まります。木でつくった農具を使って、用水路や水田をつくり、田植えをし、草をぬき、石包丁で刈り取り、臼と杵で脱穀して、今と同じように炊いて食べていました。

稲作で食料をつくるようになって、生活はいっそう安定しました。また、社会の仕組みも発達して、人々の間に身分の上下が生まれ、いくつかの村を治めるリーダー（王）も現れました。

最初に日本に伝わったお米は、何種類かあったようですが、粒が長くて赤黒い種類が多かったと考えられています。今の赤飯は、この赤米がルーツではないかといわれています。

体験学習では　鹿央町主催の「古代の赤米づくり」を、体験学習の一環として共催しています。６月に田植え、11月に稲刈りをし、赤米のご飯や餅をつくります。

古代の赤米づくり（平成8年）

染め物づくり

－弥生時代～（約2,400年前～）－

弥生人たちは麻や絹で服をつくって着ていましたが、同時に、糸や布を染めて色をつけるおしゃれも始まりました。古墳時代になると、朝鮮半島から織物や染色の高い技術が伝わり、染め物づくりもさらに発達したようです。

古代の染め物は、植物の根や葉の煮汁で染める「草木

古代の染め物づくり（平成11年）

親子古代絵画教室（平成6年）

染め」で、およそ1,400年前ごろには藍染め（青・紺色）や茜染め（赤）が行われていたようです。

体験学習では　絹・綿・麻のハンカチなどを、キハダ（黄色）・クリのいが（茶色）・アカネの根（桃色）などの煮汁で煮て、水で洗い、これを２・３回くりかえして染めた布を乾かします。絹布はよく染まって、きれいに仕上がります。

古代絵画教室

－古墳時代（約1,700年前～1,400年前）－

装飾古墳の壁画は、絵の具で描かれた日本最初の絵画です。○や△などの文様のほか、武器・人・馬・船などを、赤・青・黄・緑・白・黒の絵の具を使って描いています。

装飾古墳は九州地方に多いので、朝鮮半島の装飾古墳の影響を受けてつくられたと考えられています。古墳に葬られた死者の安らかな眠りのため、悪霊などが寄りつかないようにするために、壁画が描かれたのでしょう。

体験学習では　初めに赤色ベンガラづくりをします。鉄分を含んだ黄土を焼いていくと、鉄分が酸化して赤色に変わっていきます。そして、阿蘇溶岩の石板をキャンバスにして、岩絵の具（ベンガラ）を使って、装飾古墳の壁画を描くように絵を描きます。

陶器づくり

－奈良時代～（約1,300年前～）－

「陶器」とは、トンネルのような窯の中で1,000℃以上の高温で焼いた土器のことで、ふつうは釉薬（うわぐすり）をかけて焼きあげます。釉薬をかけて焼くと、釉薬が硬く焼きしまって丈夫になり、水を入れても漏れないようになります。また、表面をいろんな色で美しくかざることができます。

古墳時代に、窯を使って硬く焼きあげる「須恵器」づくりの技術が朝鮮半島から伝わり、奈良時代になると、釉薬を塗ってきれいな色の模様をつけた陶器がつくられるようになりました。そして平安時代（794～1192年）の終わりごろに、瀬戸焼や信楽焼など、今に続く焼きものができあがります。

体験学習では　回転台などを使って土器を形づくり、窯で素焼きをしたあと、釉薬を塗って本焼きします。素焼きは約600℃、本焼きは約1,300℃まで温度を上げます。

体験学習会の歩み

当館は、従来のただ「見せる」だけの博物館ではなく、「県民参加型」の博物館をめざし、その具体策として、原始・古代の衣・食・住に関するテーマを取り上げた体験学習事業を、平成4(1992)年のオープン当初から実施してきました。

今日の博物館では、何らかの体験学習が当たり前のように行われていますが、当時は全国でもほとんど類例がなく、体験学習の事業化にあたっては、学芸員が知恵をしぼって試行錯誤を繰り返しました。

体験学習メニューについては、①家族(親子)で楽しめる、②自然に(身近に)ある材料を使う、③可能な限り当時の技術に近づける、という観点で開発し、原始・古代文化に楽しく親しみ学習できる内容となっています。

当初のメニューは、装飾古墳壁画のようにベンガラで石板に絵を描く「古代絵画教室」と、ドングリの粉で縄文時代の「クッキー」を焼いて試食する「ドングリクッキーづくり」の2つを柱に出発しました。その後、平成6(1994)年度に、現在もっともポピュラーなメニューになっている「勾玉づくり」と、鹿央町の事業に共催した「古代の赤米づくり」を、7年度には野焼きで土器を焼き上げる「縄文土器づくり」を、10年度には草木染めの「染め物づくり」を追加してきました。また、夏休みに1泊2日で体験学習を行う「古代体験キャンプ」を9年度から開催し、毎年盛況を博しています。

開催日については、学校週5日制に対応して、当初は毎月第2土曜日に開催していましたが、平成7年度からは第4土曜日も加えて毎月2回実施しています(学校週5日制に伴う体験学習会)。一方、6年度からは、任意の日に来館する小学校などの団体に対しても体験学習会の開催を始め(別途実施の体験学習会)、7年度には遠隔地に出張して現地で体験学習会を行う出張講座(移動体験教室)も開始しました。平成12年度には、別途実施の体験学習会が62回、出張講座も17回をかぞえ、年間の参加者数も大幅に増加しました。

こうして、現在では古代文化の7つのテーマについて体験学習メニューが定着し、これまで約1万8,000人の方が古代文化を楽しく体験されました。

体験学習会　10年間の記録

平成4(1992)年度

4/15　熊本県立装飾古墳館オープン
8/ 9　第1回企画展「装飾古墳の世界」に伴う体験学習会「親子古代絵画教室」を開催(8/16・8/23にも開催)
10/10　学校週5日制に伴う体験学習会「縄文土器ってなーに」を開催
11/14　同「土器はどこだ　石器はどこだ」を開催
12/12　同「どんな味かな　ドングリクッキー」を開催(1/ 9・2/13・3/13にも開催)

学校週5日制に伴う体験学習会　6回
企画展に伴う体験学習会　3回
参加者のべ人数　316人

第1回　親子古代絵画教室(平成4年)

平成5(1993)年度

・体験学習会を毎月第2土曜日に開催し、8月は2回開催。

学校週5日制に伴う体験学習会　12回(古墳めぐりハイキング、古代のご飯、ドングリクッキー)
夏休み特別体験学習会　2回(古代絵画教室)
参加者のべ人数　578人

平成6(1994)年度

・メニューに「古代のペンダントづくり」(勾玉づくり)を追加
・鹿央町主催の「古代の赤米づくり」を体験学習の一環として共催
・来館する団体(小学校など)への体験学習の実施を始める(別途実施の体験学習会)

学校週5日制に伴う体験学習会　9回(勾玉、ドングリクッキー)
夏休み特別体験学習会　4回(考古学教室、古代絵画教室、勾玉)
別途実施の体験学習会　8回(勾玉)
共催事業　古代の赤米づくり　2回
参加者のべ人数　626人

平成７(1995)年度

・体験学習会を毎月第２土曜日に加えて第４土曜日にも開催
・遠隔地の小学校などへの体験学習出張講座を始める
・メニューに「縄文土器・楽焼づくり」を追加し、陶芸家の五嶋竜山氏を講師として開催。

学校週５日制に伴う体験学習会	15回(勾玉、古代服、古代のご飯、縄文土器・楽焼、ドングリクッキー)
夏休み特別体験学習会	２回(古代絵画教室)
別途実施の体験学習会	４回(勾玉、ドングリクッキー)
体験学習出張講座	２回(勾玉)
共催事業　古代の赤米づくり	２回
参加者のべ人数　1,096人	

平成８(1996)年度

学校週５日制に伴う体験学習会	14回(勾玉、古代のご飯、縄文土器・楽焼、ドングリクッキー)
夏休み特別体験学習会	２回(古代絵画教室)
別途実施の体験学習会	１回(勾玉)
体験学習出張講座	１回(勾玉)
共催事業　古代の赤米づくり	２回
参加者のべ人数　832人	

古代のご飯づくりに挑戦(平成6年)

平成９(1997)年度

・メニューに、１泊２日で体験学習を行う「古代体験キャンプ」を追加

学校週５日制に伴う体験学習会	17回（勾玉、縄文土器・陶器、ドングリクッキー）
夏休み特別体験学習会	４回（古代体験キャンプ、古代絵画教室）
体験学習出張講座	11回（勾玉）
共催事業　古代の赤米づくり	２回
参加者のべ人数　1,411人	

平成10(1998)年度

・メニューに「古代の染め物づくり」を追加

学校週５日制に伴う体験学習会	16回(勾玉、染め物、縄文土器・陶器、ドングリクッキー)
夏休み特別体験学習会	３回(古代体験キャンプ、古代絵画教室)
別途実施の体験学習会	８回(勾玉)
体験学習出張講座	７回(勾玉)
共催事業　古代の赤米づくり	２回
参加者のべ人数　1,758人	

古代体験キャンプ(平成11年)

平成11(1999)年度

・「染め物づくり」を、織物・染色研究家の古閑直子氏を講師として開催

学校週５日制に伴う体験学習会	16回(勾玉、染め物、縄文土器、陶器、ドングリクッキー)
夏休み特別体験学習会	３回(古代体験キャンプ、古代絵画教室)
別途実施の体験学習会	20回(勾玉、古代体験キャンプ、古代のご飯)
体験学習出張講座	７回(勾玉)
共催事業　古代の赤米づくり	２回
参加者のべ人数　2,637人	

平成12(2000)年度

学校週５日制に伴う体験学習会	19回(勾玉、染め物、縄文土器、陶器、ドングリクッキー)
夏休み特別体験学習会	３回(古代体験キャンプ、古代絵画教室)
別途実施の体験学習会	62回(勾玉、ドングリクッキー、縄文土器)
体験学習出張講座	17回(勾玉、ドングリクッキー)
共催事業　古代の赤米づくり	２回
参加者のべ人数　7,404人	

平成13(2001)年度

メニューに「縄文の布(編布)づくり」・「土偶・土面づくり」「縄文時代の食体験」・「古代人の食体験」を追加。また、古墳見学や体験メニューなどを終日体験する１日体験教室「古代たんけん隊」(計４回)を設定。体験学習事業全体を大幅に拡大。

定期体験教室　22回(勾玉づくり、縄文の布づくり、染め物づくり、古代体験キャンプ、古代絵画教室、縄文土器・土偶・土面づくり、縄文食づくり、陶器づくり、ドングリクッキーづくり、火おこし、古代 食づくり)

これからの体験学習会

当館が体験学習会を始めて10年目を迎えた今年度は、新メニューとして「縄文の布　編布(あんぎん)づくり」・「土偶(どぐう)・土面(どめん)づくり」・「縄文時代・古代人の食体験」を追加し、また、いくつかのメニューを終日体験する１日体験教室「古代たんけん隊」を４回設定して、内容を大幅に拡大して開催しています。

最初に述べたように、体験学習会は小・中学生の親子を対象に、学校週５日制にあわせて開催していました。この方針は現在も変わっていませんが、毎月第２・４土曜日の開催日以外に、小・中学校の団体から体験学習の開催希望が増えたため、平成６(1994)年度から「別途実施の体験学習会」を、７年度から「出張講座」（移動教室）を始めました。こうして、現在の体験学習会は、小学校を中心とした学校教育との連携の必要に迫られています。

博物館は、社会教育の場であるとともに、学校教育においても有効に機能しうる文化施設です。学校の先生と博物館の学芸員が連携して、展示の見学や学芸員による出張講義などを、教育課程の一環として行う例もあります。当館としては、小学校６年生の社会科（歴史）などと連携し、考古資料の実物を観察する・むかしの技術を実体験する（体験学習）ことを通して、日本の原始・古代への歴史認識と理解を促す活動を、学校の先生とも話し合いながら体系化して実施していかなければならないでしょう。また、来年度からは学校週５日制が完全実施されるのにともなって、従来の第２・４土曜日開催という形態も、発展的に改変しなければならないでしょう。

10年という一つの節目を迎え、従来の体験学習のあり方にとらわれず、新たな体験学習メニューの研究・開発も含め、時代の要請に応じて新しい試みを続けていきたいと思います。

学芸課職員による説明（平成12年　勾玉づくり）

凡例

1. 本書は、熊本県立装飾古墳館が平成13年7月17日から同9月2日に開催する、平成13年度前期企画展　開館10周年記念「むかしのわざに挑戦―古代体験教室―」展に際して発行する解説パンフレットである。
2. 本書の編集は、当館学芸課　江本　直の指導により、同谷口育聖・北原美和子・吉里美枝子の協力を得て、林田登之が行った。

平成13年度前期企画展　開館10周年記念
むかしのわざに挑戦－古代体験教室－

発行日　　平成13年７月17日

編集・発行　熊本県立装飾古墳館
熊本県鹿本郡鹿央町岩原3085番地
TEL 0968-36-2151
FAX 0968-36-2120

この電子書籍は、熊本県立装飾古墳館 企画展図録 第15集を底本として作成しました。閲覧を目的としていますので、精確な図版などが必要な場合には底本から引用してください。

底本は、熊本県内の市町村教育委員会と図書館、全国の歴史博物館、考古学を教える大学、国立国会図書館などにあります。所蔵状況や利用方法は、直接、各施設にお問い合わせください。

書名：むかしのわざに挑戦
発行：熊本県立装飾古墳館
〒861-0561　熊本県山鹿市鹿央町岩原3085番地
電話：0968-36-2151
URL：http://kofunkan.pref.kumamoto.jp/
電子書籍制作日：西暦2018年6月1日